

「強化すべき能力」とは何かを考える

- 21世紀を生きていく上で大切な能力とは -

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：林さんは、開倫ユネスコ協会の会長だそうですね。開倫ユネスコ協会の基本理念は何ですか。

A：(林明夫：以下省略)「人間の安全保障」の推進です。

国にとっても、安全を保障することは大切です。同じように、一人ひとりの個人にとっても安全を保障することは大切です。一人ひとりの「人間の安全保障」を推進することが、開倫ユネスコ協会の社会的使命(mission ミッション)です。

Q：「人間の安全保障」の内容は何ですか。

A：紛争地や困難な場所で、一人ひとりの人間を「保護」することが、第1の内容です。生存を確保すること、生命、身体、自由、財産を守ることが「保護」だと私は考えます。

その上で、一人ひとりの人間が力をつけて自立すること、つまり「能力強化」が大切です。「能力強化」が、「人間の安全保障」の第2の内容となります。

Q：それでは、お伺いしますが、強化すべき能力とは何だとお考えですか。

A：私は、21世紀を生きていく上で必要な能力は3つあると考えます。

まず第1は、学校などで身に付けた様々な知識をうまく組み合わせて使いこなす能力です。「学習の3段階理論」で、①「理解」→②「定着」と一つ一つの知識を着実に身に付け、③の「応用」までたどりつき、「テストで十分な得点が取れる」ようにすることが、まずは大切です。しかし、テストで合格点が取れるだけでは不十分で、学校で身に付けた様々な知識をうまく組み合わせて、つまり相互作用的に自分のものとして用いてはじめて、知識が活かされ、生きていく上での道具として役に立ちます。

学校で習う知識だけではなく、コンピュータなどから得られる情報もうまく組み合わせて使いこなせることも大切です。

さらに言えば、これからは、英語とコンピュータをバリバリ使いこなせた上で、世の中に役立つ、つまり人様のお役に立つ自分の得意分野・専門分野を持つことが大切です。

Q：大切な能力の2つ目は何ですか。。

A：異質な集団の中で交流できる能力です。他の人々と共に学び、生活し、働くことができる能力は極めて大切です。

Q：具体的にはどういうことですか。

A：①「他人とよい関係を作る」、つまり「他人とうまくやっていく」能力ですね。これは、相手の立場に立って、その人の観点からものを見ることのできる能力、つまり「共感」できる能力を意味すると思います。

②チームプレーができる、つまり協力することができる能力も大事です。

ただし、チームプレーの前提は、チームの中で十分に話し合った上で、各人が自分自身のポジションについては誰の力も借りずに役割を果たすことです。

話し合う能力、与えられたポジションで役割を果たす能力が大事ですね。

③争い、つまり問題を処理し、解決する能力です。

Q：3つ目は何ですか。

A：自分自身をコントロールしながら活動する、つまり「自律的に活動する」能力です。

Q：「自律的に活動する」ためには、何が求められますか。

A：①自分自身の行動や決定を、高い見地から、つまり一層広い文脈の中で、理解し考える能力。自分が何をを行い、何を決めようとしているのかを幅広い見地から考えることができる能力です。

世の中がこれからどうなっていくのか、ルールがどうなっているのか、自分のおかれた状況がどうなのか、これらを十分に踏まえた上で、大きな展望の中で活動する能力が求められます。

②将来への展望を持ちながら、人生計画や個人的なプロジェクトを設計し、実行する能力。

③自らの権利や義務を十分知って行動する能力。自分の行おうとしていることの社会的な意味、さらに言えば、「社会的使命(mission ミッション)」を絶えず自覚して行動できる能力が最も求められていると言えます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：人はどんな状況においても、「みんなの中」で、つまり「社会の中」で「自分らしく」生きることが大切であると考えます。生涯にわたり、みんなの中で自分らしく生きるにはどのような能力を身に付けたらよいか、ゆっくり考えてみるのもよい勉強です。

皆様は、「能力」とは何であるとお考えですか。

今回の文章は、ドミニク・S・ライチェン、ローラ・H・サルガニク編著、立石慶裕編著「キー・コンピテンシー、国際標準の学力をめざして」P210～P218、明石書店2006年刊を大幅に引用させて頂きました。鍵となる3つの基本的能力(キー・コンピテンシー)は、OECDの長年の調査研究の成果といえるものですので、是非この本をお読みください。

2007年7月20日記